

まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略 今後の方向性一覧

◇基本目標1 “住みたいまち”に

※下線は検証委員会意見

番号	具体的な施策	KPI	H27実績	今後の方向性
1-1	<p>◇若い世代をターゲットとしたUIJターンの促進</p> <p>養父市で生まれ育った若者などへ結うターン(Uターン)を促す取組や回帰を促すアプローチを市民総参加で行い、女性をはじめとする養父市に関わりのある多様なUターンを促進する。</p>	50組 (累計)	8組	<p>各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。「やぶ暮らし住宅支援制度」は平成30年度で失効するため、平成31年度に向けて新たな支援制度を設ける。市外在住であっても市に縁のある方に対し、市の動きを直接情報提供できる仕組みをつくることで、養父市とのつながりを構築する。市内の子ども達が養父市に愛着を持てるよう、特徴的な取組を行う企業や個人も含めた養父市の魅力を発見できるような発信を行うとともに、子ども達のまちづくりへの意見が市政に反映される仕組みを整える。</p>
1-2	<p>◇U・I・Jターン者等による起業・就業の促進</p> <p>古民家、空き民宿など活用したI・Jターンによる起業やマンパワー不足が課題となっている介護・建設・農業・林業分野でのOJTによる就業を促進する。特に養父市に住む若い女性に対して雇用に繋がる資格取得等スキルアップを支援し、女性が活躍できる環境をつくることにより、女性のU・I・Jターンを促進する。</p>	25人 (累計)	3人	<p>各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。若手職人育成事業については、利用が限定的であるためPR方法や関係機関との連携、更には制度を見直すことが必要である。UIJターンをしようとする若者が起業・就業するうえで養父市が選択肢になるよう、就業したいと思われるような特徴ある取組を行う企業や「養父市では新しいことが出来る」と思わせる独自の取組を行っている個人を含めた養父市の魅力を発信する。</p>
1-3	<p>◇空き家を活用した移住・定住の推進</p> <p>空き家解消に向けたストックの有効活用を図るとともに、農地と空き家を組み合わせるなどやぶぐらしを象徴する取組を推進する。</p>	50件 (累計)	7件	<p>各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。特に、移住相談窓口の充実・強化をあわせて各事業を行う。移住者にとっては移住相談の対応者が最初に接する養父市民であり、そこで丁寧な対応を受けたかが移住の是非に影響するため、移住相談の対応者がワンストップで対応できるような体制の整備に加え、利活用可能な空き家確保に向けた取組を強化する。</p>

◇基本目標2 “チャレンジできるまち”に

2-1	<p>◇6次産業化の推進と拠点の整備【特区関連】</p> <p>農家・事業者の6次産業化を促進する加工機能・ノウハウを提供する仕組みを確立するとともに、農家・事業者らが行う6次産業化への取組を推進する。</p>	15経営体 (累計)	1経営体	<p>各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。6次産業化に取り組むための意識の醸成を高める取組を検討する。また、商工業者へのアプローチを図る。長期的なブランド戦略として、養父市の取組を多言語発信(イタリア語、フランス語)などにより海外展開につなげる。</p>
2-2	<p>◇多様な起業・創業の促進</p> <p>農業・林業・観光・子育て・福祉分野をはじめ幅広い起業・創業の立ち上げを促進するとともに、販路拡大、技術・業務提携、資金調達など一貫した成長発展を促す仕組みを構築する。</p>	30件 (累計)	0件	<p>事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。地域の課題や地域資源を踏まえ、どのような分野の起業を求めるのか等、特徴付けを行い発信していくこと。</p>

番号	具体的な施策	KPI	H27実績	今後の方向性
2-3	◇農業を担う人材・経営体の育成【特区関連】	20人(社) (累計)	7人(社)	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 国家戦略特区や有機の里構想さらには、女性農業者を前面に出したPRを行い、新規就農の促進を図る。 但馬農業高校卒業生が農業経験を活かさずにいる現状には改善余地があり、就農までの道筋を整えることが必要。 地区の高齢な農業従事者が新規就農者の指導者(メンター)になるなど、地域として持続的な農業を行う仕組みを整える支援が必要。
	新規就農者への支援の充実、雇用の受け皿となる法人化を促進することにより、農業の担い手を育成する。また、おおや高原・轟高原などの特徴あるロケーションでの農業の担い手を呼び込む仕組みを構築する。			
2-4	◇企業立地の促進と規模拡大・第2創業などがんばる事業者の支援	のべ100社 (累計)	26社	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。 個別の事業については事業の周知に工夫が必要。 なぜ養父市に企業が立地するのか、という観点から企業にとっての利点を磨くとともに、養父市が1番にみえる魅力的なPR方法で発信することが必要。
	新たに立地する企業への支援や第2創業、事業拡大、設備の近代化、見本市への出展、新エネルギー設備の導入など頑張る市内事業者を支援し、商工業の振興を図る。			
2-5	◇近代化産業遺産の活用	100,000人 (H31年度)	13,693人	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。 明延地域を観光エリアとして、雇用創出に向けた取組みを行う。 画像や動画などの視覚的にわかりやすいコンテンツをSNSのような拡散しやすいメディアで発信するなど、対象に応じた情報発信を機会を捉えて戦略的に行う。 養父市のみでなく、近隣市外の観光資源を利用した事業も検討する。
	兵庫県が推進する「鉱石の道」プロジェクトと連携し、明延鉱山「一円電車」の復活等による観光資源に磨きをかける取組を推進する。			
2-6	◇伝統産業のイノベーションプロジェクトの推進	1事業者	0事業者	新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。 調査研究結果に基づき計画を早急に確立し、必要な事業関係部署で取り組む。
	伝統産業であった養蚕産業を従来のシルク製品にとどまらず、美容健康分野、医学的利用も視野に入れた新たな産業として再生の可能性に向けた検討を行う。また、養蚕と関わりの深い養鯉産業の再生もあわせて検討する。			

◇基本目標3 “子育てしたいまち”に

3-1	◇男女の出会いづくりと好感度の向上	10回	6回	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。 縁結び奨励金交付事業は、社会福祉協議会、シルバー人材センター、地域おこし協力隊においても同様の活動に取り組んでいるため連携して行う。 現在のKPIは活動指標であるため、KPIを「出会い・結び合い事業実施回数」から成果指標となる「世話人等による成婚数」とし、目標値を年間「3組」とする。 田舎に住みたい都市部の女性が気軽に養父市に来れるよう、結婚だけが目的でない、交流・出会いのためのイベントを婚活イベントの手前に設ける。 行政がイベントを主催するのではなく、民間の活動を行政がサポートする体制が望ましい。
	独身男女の出会いやお見合い等のカップリングをコーディネートする人材や団体を育成し、出会いの機会をつくるとともに、自分磨きや異性との関わり方を学ぶセミナーなどの開催により、異性との関わりが円滑にできる男女を増やす。			

番号	具体的な施策	KPI	H27実績	今後の方向性
3-2	◇子どもを持ちたい希望をかなえる	60.0%	57.0%	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
	不妊、不育に悩む夫婦や子育て家族が希望する人数の子どもを育てるよう支援し、経済的負担を軽減する。			
3-3	◇妊娠から子育て期までの切れ目ない支援を展開	80.0%	71.0%	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。 子育てに関して市民へ直接届くPRとともに、市外には本市の独自性を有した事業をその他の事業と合わせて発信する。 市民ニーズに沿った施策を展開するため、市民の要望を事業の改善に反映する取組を行う。
	妊娠期から子育て期までの様々な支援をワンストップで切れ目なく展開するため、相談体制の充実と医療費、保育料の負担軽減を図る。また、雨天・冬季でも子どもが安全に遊べ、親同士のコミュニティの場となる環境を整備する。			

◇基本目標4 “健康長寿のまち”に

4-1	◇健康・体力づくりの推進	35.0%	—	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 現在設定されているKPIは毎年アンケート調査等を別途行うことが必要なため、毎年計測している数値(20才～64才の年齢で、やっぴー健康ポイントを交換している方など)をKPIとすること。
	生活習慣病の予防と改善、健康寿命の延伸のため、壮年期からの健康づくりのため、運動や体力づくりを推進する。			
4-2	◇高齢者等の生きがいづくりと社会参加の促進	50,000人日	48,468人日	各事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 新規事業については、PDCAを回すことに意識して実施する。 既存のイベントに孫と高齢者とが交流できる場を入れるなど各世代間交流の取組により促進する。
	高齢者の就労ニーズに合わせた就労に関する取組を推進する。特に国家戦略特区の規制緩和も視野に入れ(公社)養父市シルバー人材センターによる地域課題の解決(農、観光、子育て、福祉分野など)に資する取組を促進する。			
4-3	◇疾病予防と健康づくりの推進	60.0%	32.0%	事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
	高齢になっても健康で住み慣れた地域で元気に暮らせるよう、若いときからの健康づくりとまちぐるみできめ細やかな健康管理・疾病の早期発見と生活習慣病予防を図るための取組を進める。			
4-4	◇公立八鹿病院、市立診療所の医師確保による医療機関の安定運営	45人	37人	事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。 但馬全体で医療体系を整える観点から、八鹿病院にあるべき機能の充実を図る。
	継続的かつ安定的な医療提供のため、公立八鹿病院の深刻な医師不足及び市立診療所の医師の高齢化に対応する取組を実施する。			
4-5	◇介護予防の推進	60箇所 (累計)	10箇所	事業について、今後の方向性に沿って必要な改善を行う。
	地域ぐるみでの介護予防の場を拡大することを推進し、地域において自立支援に資する取組やすべての高齢者が生きがい・役割をもって生活できるための取組を推進する。			